

「県1JA」を目指した 協議を加速

8月28日(火)

第2回組織再編協議会開催

8月28日、JA秋田中央会の役員改選後、初の組織再編協議会が秋田市で行われました。

協議会会長に選任された中央会の齊藤一志会長は挨拶の中で、「第30回秋田県JA大会で決議された『オール秋田で挑む組織・事業・経営改革』の実現に向け今後の協議を加速する。議論の根底となるのは、組合員がメリットを実感できるものでなければならぬ。中央会を含めた県域組織の機能についても大きく見直していきたい」と述べました。

今後の協議にかかる考え方については、県1JA構想に参加意向のJAで「県域JA」を組成し、最終的に「県1JA」を目指す方向で進めることとなりました。また、農業振興計画については、組合員組織や県行政を交えて検討していく旨話し合われました。(基本構想素案はJA秋田中央会HPをご覧ください。)



第63回 秋田県JA女性大会並びに秋田県家の光大会

9月8日(火)

秋田市の秋田ビューホテルを会場に「第63回秋田県JA女性大会並びに秋田県家の光大会」が開催され、全県から165人の女性部員が参加しました。当JAからは長崎久美子部長をはじめ、各支部から女性部員15人が参加しました。

大会では「家の光記事活用体験発表コンクール」で村上初恵さん(綴子支部)が『つくる喜びを子どもたちへ』と題し、支部の恒例行事となっている綴子小学校との料理教室について発表しました。村上さんたち綴子支部は児童たちが栽培し収穫したサツマイモを使って大作りしました。児童たちからは後日、「みんなで作った大学いもを食べてパワーいっぱいになった」「お父さんとお母さんに作ってあげたら喜んでくれた」など、部員一人ひとりに宛てたお礼のメッ



優良賞を受賞した村上さん

セージが届き、「美味しく食べる工夫をする姿に感心しました。本当に嬉しかった」と当手を振り返りました。村上さんは最後に「手間の掛かることは楽しい、嬉しい。児童たちにはこの出来事を大切にしてほしい。私たちも活動を通して子どもを伝えていけたら」と締めくくりました。

大会ではこのほか、長崎部長による活動発表や家の光普及実績JA表彰報告、国際ジャーナリストの堤未果さんが「狙われる日本の食と守るべき日本の宝」と題しリモートでの公演を行いました。

また、JA女性組織の活動は国連の持続可能な開発目標(SDGs)そのものであり、一人ひとりができることを考え行動し、新型コロナウイルス終息に向け活動していくという内容の特別決議を満場一致で採択しました。